

優秀賞（事務次官賞）
＜作文（中学生）の部＞

『土砂災害と向き合う』

京都府立洛北高等学校附属中学校 三年

尾崎 伸太郎 おぎまき しんたろう

土砂災害について、これまではさほど深く考えることはなかった。だが、この夏は何度も大雨が降った。その影響で土砂崩れが発生した箇所も多く、人々の生活や交通機関などに大きな影響を及ぼした。この機会に、土砂災害について考えていきたい。

まず、自宅は山を切り拓いた所に建っている。そして、山が近くにある。そのために、土砂災害警戒区域にも含まれている。自宅には影響はなかったものの、近くで土砂崩れが最近起こった。そのため、一時的に道路が通行止となり、外出するのが困難となることがあった。ようやく通行止が解除されたかと思うと、道路は砂で覆われ、木々が倒れているなど、その被害は見ての通りであった。この時、初めて土砂災害の脅威というものを実感した。

また、別の日にはこんなこともあった。京都から神戸に遊びに行こうとしていたのだが、線路への土砂流入や線路冠水によって、一時的にJR、阪急、京阪がストップした。阪急が回復したので乗ろうとすると、駅も車内も人でいっぱいになっていた。しかも、運休や遅れによって時間も随分とかかって神戸まで行った。JRで帰るときにも、まだ遅れは発生していて、百二十分以上の遅れも見られた。交通機関への影響によってさらに混乱は起きるのだと実感した。

この夏は土砂災害が特に多く発生したと思う。その分多くの被害もでた。では、土砂災害による被害を最小限におさえるため、どうすればよいだろう。

まずは、防災訓練である。他の災害にでも同じことであるが、防災訓練をすることは非常に重要であると思う。仮に、実際に土砂災害が発生したとき、防災訓練をしていないと、どう行動すればよいのかわからずに終わってしまう。逆に、防災訓練をしていれば、どう行動すればよいのかわかっているので、落ち着いて行動できる。防災訓練をしているか否かが、自分自身の生死を決めると言っても過言ではない。しかしながら、その意識が薄いのか、積極的に行ったり、参加したりする人が少ないのも現状である。

次に、施設の整備である。これは、自分たちができることではない。自治体などに申請することなどが必要となる。しかも、必ずしも優先されることなく、整備を一切しないという可能性も出てくる。被害を最小限にしたいという気持ちをもっと多くの人に届け、土砂災害についての認識を高めてもらえるようにすれば、もっと整備もされていくのではないだろうか。

そもそも、土砂災害に対する認識は、他の災害に比べて低いと思う。防災訓練に関しても、火事や地震などに比べると行われているということを耳にすることは少ない。また、整備についても土砂災害が起こるまでされないなどについても認識が低いと思う根拠である。

ここで、自宅は山を切り拓いた所に位置する、と書いたが、このように山を切り拓いて住宅地を造設することにも一つ問題があると思う。

山を切り拓く以上、やや高い位置に住宅地が造設されることが多い。また、山を全て切り拓くわけで

はないので、住宅のすぐそばに山が残る。もし仮に、大雨によって地盤や山が崩れるとどうなるか。その住宅地は壊滅的な被害を受ける可能性が非常に高い。また、その周辺に土砂が流れ込むことも十分に考えられる。

人口が増えている以上、住宅地を増やさなければならないのはよくわかる。しかし、こういった危険も伴うのだから、土砂災害対策をしっかりとしていかなければ、被害は増すばかりである。

この夏起こった土砂災害と、それによる被害をうけて、土砂災害について改めて考えたが、何よりも土砂災害に対する意識を高めていく必要があると強く思った。特に、自分が住むところの立地条件からして、もっと考えていく必要があると感じた。

「土砂災害」とは、一種の災害である。他の災害とは違う点も多いが、何よりも人々の生命にかかわるものであるのに違いはない。そのことをもっと多くの人々に伝えていきたいと思う。